

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホーム うらら金山		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	平成23年1月18日	評価結果市町村受理日	平成23年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172800548&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームうらら金山は「ぬくもりの里」バス停より1分程の所にあり、閑静で日当たりの良い所です。温泉施設・道の駅・体育館・プール・特別養護老人ホームが見渡せる所です。平成24年には市立金山病院がオープン予定で、医療・福祉の連携が期待されます。地域との交流も日常的にあり、散歩のときの挨拶や行事へのお誘いなどもあり、地区の祭礼や防災訓練への参加など住民として生活しています。R41・256ともアクセスが良く、訪問者やボランティアの友愛訪問なども多く良好な環境であると自負しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ぬくもりの金山の地で、うららかに明るく笑い、楽しく語らん」の運営理念の実践に取り組んでいるホームは、昨年、新ユニットを増設し、2ユニットとなった。新体制となるにあたり、ケアの質の向上を図るため、全職員は何らかの委員に属し、役割を持つように決め、職員会議や勉強会で報告する取り組みをはじめた。毎日の散歩を日課とし、体力の維持や楽しみへの支援に力を入れている。また、個別の思いを大切に受け止め、介護タクシーや外出ボランティアの協力を得て、支援している。ホーム行事に地域の人々に参加してもらえよう呼びかけるなど、地域との交流にも力をいれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理解しやすい理念を掲げ、職員会等で話題に上げる。	「ぬくもりの金山の地で、うららかに明るく笑い、楽しく語らん」を運営理念とし、玄関に掲示し、職員会議等でも日々意識付けし、実践の支えとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩・買い物等で地域の方とのコミュニケーションが密になった。季節の野菜を頂いたり、見守りをして頂いたり、また、祭礼や夏祭り、防災訓練に参加し交流を図っている。	季節ごとに開催する「ほう葉寿司づくり」、「餅つき」等の行事には、地域や社協登録のボランティアの協力を得ており、地域住民にも参加を呼びかけ、地域との付き合いも深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	私どもが持っている経験・知識・技術を地域にお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・福祉課・包括センター・民生児童委員・福祉事業所などの参加で希望や苦情なども拝聴し、利用者目線のサービスにつなげている	昨年度は6回開催し、市職員・民生委員・全家族・近隣住民に案内し、多数の参加が得られるように配慮している。昨年ユニットを増設し、利用者も倍になり、さらに運営推進会議を通して、地域に向け、グループホームや認知症の啓蒙、地域との交流に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には参加をお願いし、私どもの運営にアドバイスを頂き、好意的に協力頂いている。	市には、運営上の相談等にもってもらっており、協力関係が出来ている。市の考え等を運営推進会議で参加者にわかりやすく説明してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル・パンフレットを活用し職員間で話し合いをもち身体拘束防止に努めている。	身体拘束をしないことをホームの運営方針とし、その実践に努めている。虐待防止委員会を設置し、虐待防止の外部研修を受け、内部の学習会を開催するなど、職員の正しい理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	文書は回覧し、読後、署名あるいは捺印して徹底を図っている。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	文書等は回覧するが、難しい制度であるので理解されにくいことがある。しかし時代の流れではあるので、勉強する必要性は伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の前に契約書・重要事項説明書をおわたしし、熟読くださるよう話をし、契約当日はどんな些細なことでも遠慮なくお訊ねくださるようお話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	書類発送時に入居者様の近況報告やホームへの要望・意見を言って頂くよう伝えている。	毎月、各家族に個別の利用者の暮らしぶりを報告しており、家族から意見や要望を記入する用紙も同時に送付し、返送してもらうよう依頼している。要望が出にくい土地柄ではあるが、サービスの質の向上のためには大切なことと家族に働きかけ、機会を見つけては意見を聞くように努めている。	家族から出された意見や質問の回答を「うらら通信」に掲載する等、広く公開することも含め、意見の反映に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	決められた時間内ではあるが、自由に発言しやすい環境づくりをしている。	毎月1回、職員会議を開催し、意見を出し合っている。職員数が多く、勤務状況も異なる中での会議は1時間と短い、できる限り、全職員が意見を言えるよう事前に会議資料を配布するなど配慮し、職員の意見を吸い上げ、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	23年度は積極的に取り組むよう配慮してもらう。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会の支部会には毎回出席し、意見交換している。講演会への参加を呼びかけたり、他ホームへの訪問もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に入所当初は、集中的な見守りをし、不安そうな様子や行動があるときは積極的に関わるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所以前から関わりを持ち、どんな些細なことでも言っただき、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの必要度を推し量り、対応し、他のサービスも紹介する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	些細なことにも耳を傾け、越し方の苦労や楽しかった話を受容的に傾聴し、信頼関係を築く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主人公は本人であるという認識に立ち、家族・職員・地域社会・ボランティア・医療は本人を支えるスタッフであるという認識で対処していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅を訪問したり、自宅近くまで出向く。入所により孤独なったり、人間関係が疎遠にならないよう配慮し、訪問・面会をより多く要請する。	介護タクシーやボランティア、家族の協力を得ながら自宅訪問等を、その人の介護計画の中に盛り込み、本人の馴染みの環境・人々との繋がりが継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご縁を大切にし、〃仲間であるという気持ちを持っていただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居・入院・他施設への入居などホームを離れた方に配慮することにより現入居者の安心と信頼に結びつくと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話・行動の中で本人の思い・考えに沿うよう努めている。意思表示できない入居者の気持ちを忖度する。	日常の行動の中で、利用者の感じる音や匂いの好み、感情の表し方などから、気づいたことを職員間で共有できるように申し送り簿に記入し、読んだらサインすることに決め、実施している。自宅と一緒に訪問し、近隣の人から本人の生活歴を聞くなど、色々な場面で本人の思い等の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ、多方面からのアプローチを試みたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕のバイタルチェックは当然のこと、あらゆる面で現状把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランにはケアマネの意見のみならず、職員会での意見・考えを多方面からアプローチしケアプランに生かす。	家族の意見は面会時や電話で確認し、職員の気づいた利用者についての記録と、ケアマネジャー独自の観察記録も合わせ、ケアカンファレンスで検討し、介護計画に反映している。家族からの受診情報や協力医の意見等、健康面の情報も収集し反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録・文書の情報をもとに見なおしを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の事業所では自ずから限界があり、その中で何が出来るか出来ないかを検証する。ソフトの面では職員の意識しだいで、多機能化は図れる。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会・近隣・家族は勿論のこと、社協・包括・ボラ等の協働によりよりよい暮らし実現を目指したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居者から信頼を得ている。何でも聞いてくださるので遠慮なくお聴きするようにアドバイスしている。	入居前からのかかりつけ医を選択している利用者が多いが、家族が通院介助が困難になった場合、ホーム協力医に変更することもある。受診情報は家族または協力医から得て、職員全体に伝えられている。利用者の投薬内容は、職員に周知されおり、服薬を確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約看護師は丁寧に入居者の話を聞いてくれるので、信頼が厚い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医のアドバイスや病院との連携がとれているので、安心感がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成中であるが、医療行為が絡むことが多くホームでは限界がある。	重度化や終末期の「看取り方針」を法人全体で作成し、実施するにあたっては、看取りの場所、かかりつけ・協力病院の体制、医療的処置、家族の協力体制等を確認することとしている。作成した指針で不十分なところがあれば、その都度、改善していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡体制は取れているが、実践となると心もとない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月15日をホームの防災の日と定め、避難を中心に訓練をしている。年二回の訓練に一回は消防署の指導を受ける。	避難経路・非常時連絡の確認、避難誘導訓練を、毎月15日に、その日早番に当たる職員を責任者として実施している。また、年1回は、消防署の指導による訓練を行っている。誘導した利用者が再度ホームに入らないように工夫した避難誘導法を採り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いに努め、なるべく地域の言葉で話す。居室に入るときは必ず声をかけ許可をもらう。	職員自らが言われたり、されたりすることで不快や悲しくなる行動はしないと決め、実施している。居室への出入りも、都度、本人に声をかけて行っている。ケアの声かけは、本人だけに通じ、周囲の者にあからさまにならないように表現し、伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	そのように努めているが、十分ではない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある意味のいい加減さを大切にしたい。寄り添う介護に努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のお洒落心を大切に、整容のアドバイスをする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルに着き、話のきっかけをつかむよう配慮する。	利用者のできる力に応じて、刻んだり、味付けを職員と共に行っている。食事のときには、刻んだり、味付けしてくれた調理に参加した人や、食べやすく調理を工夫した職員を紹介し、皆に感謝を表している。ホームでの味付けが好評で、花見にもホームで弁当を作って出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が把握し、健康保持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは実践している。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況表にチェックを入れ、間隔をつかむ。不潔にならないようパッドの取替えを促す。	排泄は自立している利用者が多いが、排泄チェック表を活用し、誘導する時間の目安にしている。誘導は、本人の表情や態度など様子を観察・記録し、誘導のタイミングを職員間でも共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多いメニューを提供する。水分摂取を十分にし、体を動かすよう促し、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状では一般家庭のようにもって行くのは、当ホームでは難しい。	入浴は、毎日準備し、利用者は隔日に入浴している。20～30分の入浴時間は、職員から1対1の支援を受け、ゆったり会話ができる、利用者にとっても楽しみな時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明かり、温度、音の調整によりまた、電気毛布の使用により安眠できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は本人確認・日付確認・朝昼夕眠前の区別を職員が声を出して確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員にも得て不得手があり、あまり窮屈な考えはしない。全体でやることもあり、また、個人に合わせることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課としては近辺の散歩が多い。時には自宅やその近くを訪ね、時期によっては新緑ドライブ・お花見・紅葉狩り・滝めぐり・蛍狩り・お寺参りなどメニューを変えて出掛けるようにする。	新ユニットの利用者は1時間程、6年前に開設したユニットの利用者は20分程の散歩が可能である。毎日の散歩を日課とし、それぞれの体力にあった速度やコース、散歩の仕方を工夫し、外出が継続できるよう工夫している。花見や蛍狩りなど、車での外出も季節の楽しみとして出かけている。	

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いにより金額の多寡を決めたりして持っていることの安心感を大切にする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コタツは人気のスポットで楽しい語らいの場所である。ウッドデッキは日向ぼっこ・近所の方との語らい・洗濯物干し場・野点・など人気がある。	ホーム内はどこも木造の広い空間で、ゆったりしている。茶色の椅子に職員手作りの椅子カバーが掛けられていたり、赤いソファが、落ち着いた雰囲気のリビングのアクセントになっている。季節の花や飾り物が置かれた広いリビングは、歌を歌ったり、笑い声の絶えない憩いの場所になっている。ウッドデッキは、バーベキューや干柿作り、洗濯干し等に活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ・和室・屋外のベンチを利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは部屋を提供するだけなので、入居者が何をもち込まれても特に何も申し上げない。	居室には、それぞれの家庭から、ベッド・小箆箆・テレビ・衣装用ケース等が搬入されている。ポスターや写真等の搬入もあり、整頓され、全体的に落ち着いた部屋となっているが、これまで使っていたと思われるその人らしさが伝わる物品があまり置かれていない。	ホームの暮らしをこれまでの生活の延長と考え、持ち込みの制限はないため、出来る限り本人の使い慣れた物や思い出のある物などを搬入してもらえよう、家族の理解と協力を得られたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで居室・風呂・トイレなどすべての方が間違われることはない。よって案内板の類もない。		